

音講座をやってくださいと言われていましたので音講座をやりませう。

まずは自己紹介

私はX680x0同好会のサークルに入ってから作曲を始めた数少ない人間です。入部をしてから3年目となつて、サークルにいる人も幾度か自分の曲を聴いていて、もう自分がどの程度の能力を持っているのかを大体理解しているものとしてお話しませう。(つまり下手くそな作曲者です。謙遜とかそんなレベルではありません。)

①音師ならではの会話に気をつけませう

サークル内で音師は珍しいからか、部員が気に入った曲を聴かせてもらえるんですが、渡されて初めて聴く曲で「八木もこんな曲つくつてよ。」なんてよく会話に出てきます。そういうときは、どうやってその曲を作るのかを考えるよりも、**その場を流すことを考えませう。**

当時、技術面も精神面も未熟だった私は悩んでしまひ、(どうせあんたらだつてつくれなくせにい……!)と、ひがんでしまひましたが、これはよくありません。こういう場合は「無理！」と、相手を一蹴するくらい強気で断りませう。



↑ SC-8850 ハード音源:まだ使いこなせず

②muzieやプレイヤーズ王国などの音楽配信サイトの曲に気をつけませう

音楽を作つてる人にはアマチュアでありながら、とても高いクオリティの曲を作る人が大勢います。大学に入って始めたような人がこのようなレベルの高い曲と自分の曲を比較してしまふと作曲者を駄目にしてしまふかもしれません！特に自尊心の高い方や、自分の曲をようやく完成させた直後に聴くと自信を失なつて落ち込んでしまふ恐れがあります。作曲を始めて間もない人にそういう曲を聴かせてしまふ人がいたら、「音楽サイトのすごい曲を聴かして潰す気か！」

と叱ってあげますよ。きっと作曲も将棋と同じように**相手が強すぎ**てはいけないのです！ちょっと自分より強い相手を見つけて「これくらいのクオリティを目指そう。」という目標で良いではないでしょうか。

・おしまい

ものすごく自己弁護な文になってしまいました。なんだかんだいって音を作ってる人の心境は理解されにくく、苦勞するんですよ。相手の要求に対して、自分でもそういう曲にしたいとは思っていても、どうしても曲がその理想に近づいていかないというジレンマと常に闘っているんです、以上にて音講座を終わります。

「男のおしゃべりなんて最低よ！」



↑ エレキギター:まだ使っていない